

私の現場と 流域治水プロジェクト

プロジェクト
最前線からの報告
第1弾

(佐波川の流域治水プロジェクトの最前線でがんばっている方に、仕事・取り組み内容や流域治水を進める上でみなさんへのメッセージをお聞きしていきます。(聞き手：山口河川国道事務所))

重源上人ゆかりの歴史と伝統の森

なめらやまこくゆうりん

滑山国有林 を後世に

滑山国有林の森林整備事業

吉川林産興業株式会社

山林事業本部長 中村信利さんと 現場代理人 前田務さんのお話

担当者の声



前田さん

問:滑山国有林ではどのような仕事をしていますか?

滑山国有林は山口県下最大の国有林(約2,500ヘクタール)であり、かつて東大寺再建用材を伐り出すなど古くから林業活動が盛んでまさしく「歴史と伝統が息づく森林」です。当社ではこの滑山国有林の森林整備事業として、主伐・搬出間伐・保護伐・保育間伐・植付・食害防護柵・単木保護・歩道修理など森林管理のすべてを請負事業体として行っています。

問:滑山国有林は他の森林と違ってどのような特徴があるのですか?

県内の他の森林整備と比べて佐波川上流の滑山国有林はどう違うのか、あまり意識したことはありませんが、良材といって緻密な真っすぐな材がよくとれるところかなと思います。滑松(なめらまつ)は有名で大切にされていますね。

また、伐採したところは必ず植林を行うこととなっているのもこの特徴でしょう。細心の注意を払いながら森林管理を行っています。

問:現場ではどのような雰囲気です仕事をされていますか?

現場は下請け業者の方も含めて4~5人で作業を行っています。林業は危険と隣り合わせであり、緊張感もありますが、少人数ならではのチームワークで楽しく、また、やりがいのある仕事です。

問:流域治水の取組として、滑山国有林から皆さまに伝えたいことはありますか?

大雨に強い森は常に新陳代謝を大事にしていると思います。伐採斜面も伐採木の根っこは残し、根っこの間に苗木を植え、伐採しながら新たな根っこを育てていきます。なんだか我々会社(組織)にも通じているようです。いつの時代もお年寄りを大事にしながら若者を育てる、重源上人の時代の森林整備はどうだったのでしょうか。

幸いにも私たちの会社は若い世代が育っています。20代、30代の若者と交わりながらいろんなアイデアを出し合い作業をしています。

今後も佐波川の最上流で健全な森林づくりに協力します。

森林の有する災害防止機能も万全ではありません。みなさんで出来ることを進めてみましょう。



スイングヤーダ(旋回ブーム式タワー付集材機)による伐採木の収集運搬



木材運搬の昔(左の佐波川)と今(林道)奥は滑山国有林

もしも 森林が荒廃すると



森林の持つ保水機能や樹木の根っこの持つ力が弱くなると山が崩れ、左の写真のように土石流が発生したり、右の写真のように流された木が川に出て橋にひっかり大きな被害につながってしまうことがあります。(写真は平成21年7月21日の佐波川流域内の災害事例です)

お話しポイント

適切な森林管理を行うことで土砂崩れの防止や下流の佐波川の氾濫を防ぐことにつながります。

もっと詳しく知ろう!



国有林の管理について
林野庁近畿
中国森林管理局

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



国有林(山口県内)について
近畿中国森林管理局
山口森林管理事務所

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/yamaguchi/>